平成 26 年度大学地域連携事業委員会進捗状況報告

平成 27 年 1 月 22 日

大学地域連携事業・環びわ湖大学地域交流フェスタ 2014
「大学地域連携課題解決支援事業」&「学生支援事業」活動報告会　　開催結果

■日　時：12 月 20 日（土）13:00～16:45
■場　所：コラボしが 21（大津市内）
■参加者：県内の大学関係者、学生、地域および自治体関係者など約 130 名

≪プログラム≫
１．開会挨拶（堀池喜八郎・代表幹事（滋賀医科大学副学長）
２．活動報告会
　Ａ会場「地域課題対応型」の活動報告会　8 題（当時資料表紙、紙チラシを参照）
　Ｂ会場「自主活動型」の活動報告会　　7 題（　　同　　）
　Ｃ会場　学生支援事業の活動報告会
３．交流会
４．閉会

【開会挨拶】

午後１時から、主催者を代表して当コンソーシアムの堀池喜八郎・代表幹事（滋賀医科大学副学長）が開会にあたり、今年で 5 回目となる大学地域交流フェスタの開催趣旨、大学地域課題解決支援事業として採択した 15 のプロジェクトの活動の成果を中間報告として発表し、また学生支援事業として取り組んだ二つの活動報告を発表するので、互いの実践活動を交流し、大学と地域との連携活動の可能性を広げる機会にしていただきたい旨の挨拶を行いました。

【活動報告会】

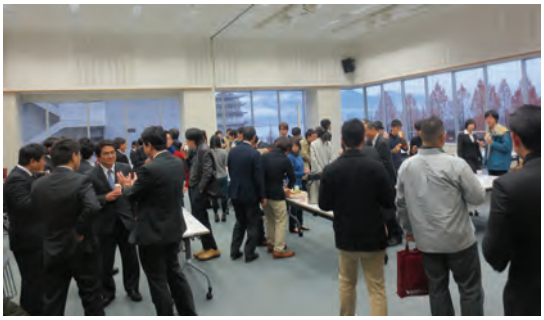
Ａ会場とＢ会場のテーマと報告者については、別添のとおりです。また C 会場は１．滋賀県ブランド力向上プロジェクトの取組（滋賀県内の 7 大学の学生が、学生の視点を活かし、滋賀県の魅力を伝える

冊子の作成を通して、どのようなことを学び、感じたかを報告)、２．沖島活性化プロジェクトの取組（5 年後の沖島のあり方を考えるというテーマで、学生の視点を活かした沖島活性化プランを提案）の成果がそれぞれ報告されました。

【交流会】

活動報告会終了後、参加者がお互いの実践活動を交流し、それぞれの成果や課題を共有するために参加者全体の交流会が開催されました。会場のテーブルにはソフトドリンクやお菓子が並べられ、和やかな雰囲気の中で懇談・交流する姿があちこちで見られました。

また、大学地域連携課題解決支援事業の活動について審査した結果、７団体が活動奨励賞を受賞し、本コンソーシアムの横山俊夫・幹事（滋賀大学副学長）から代表者に賞状と記念品が手渡されました。



【活動奨励賞・受賞者リスト】

団体名	取組テーマ・名称
東近江市農林水産課 滋賀県立大学	「（農産加工品等） 地域資源掘り起しと活用」
大津市企画調整課 龍谷大学社会学部､龍谷エクステンションセンター	「理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～」
玉川学区まちづくり協議会 草津市景観課、立命館大学経営学部	「玉川っ子検定～わがまち玉川の魅力発見～」
彦根市生活環境課 滋賀県立大学 環境科学部	「環境推進員（えこリーダー） への参加」
滋賀大学教育学部岳野研究室	「滋賀県の木質資源を利用した環境教育教材の開発」
大津北商工会 成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学	「堅田・真野健康観光 ウォーキングマップ制作プロジェクト」
長浜バイオ大学 Entrance to Science	「科学（Science） を通した地域交流」

【参考】環びわ湖大学地域交流フェスタ 2014　アンケートー自由記述ー

●活動報告会の感想をご記入ください（内は参加プログラム）
・滋賀県のあらゆる場所でまちづくりのための活動が行われていることを知るきっかけとなり、大変有意義な時間となりました。(A・交流会)
・あくまで「報告会」なので、仕方ないのかもしれないが、取り組んできたことの報告だけで、実際にどんな方法でどうしていきたいのかというところがリアリティーがなかった。話し合いや仕組みづくりだけでは気持ちは動かない。(A)
・様々な分野の取り組みを聞き、滋賀県の地域に対してより興味がわきました。(A)
・様々な活動を知ることができ、大変勉強になった。今後の参考にしたいものがたくさんあり、とても有益だった。(A・交流会)
・学生がいきいきしていてとてもよかった。(A)
・発表を控えた学生さんが、緊張した様子で事前学習していた姿が新鮮でした。(A)
・学生ならではの柔軟な視点から見た取り組みであった。(A)
・いろいろな団体、大学の活動が知れる良い機会でした。自分たちの報告が他の人たちの刺激になれば良いなと思いました。(A・交流会)

・様々な方向からいろんな活動している団体があり、興味深かった。(B)
・他の団体がどのようなコンセプト・手段でどのような活動をしているのかを知る貴重な機会となり、自分達の活動を推進していく上で参考となった。(B)
・様々な研究をされている方の話を聞き、自分とは違う文化の話などを聞けてとてもよかった。(B)
・同時並行の形であり、報告会の内容が聞けないものがあるのは残念です。(B)

・他の班のプランを聞き、目からウロコな物も多く、楽しませていただきました。(C)
・様々な意見を聞くことができて刺激を受けた。(C)
・チームごと、それぞれの特性を生かした提案で、聞いていると、なるほどなー、と感心するばかりでした。自分にはない新しい視点が知れてとても良かったです。(C)
・貴重な意見を多く聞け、非常にタメになりました。ありがとうございました。(C)
・それぞれの大学の特徴を活かして PJ を進めていて様々な見方があるんだと気づかされました。(C)
・県庁や市役所の方々からの大人の意見を聞くことができたことがよかったと思います。(C)
・沖島活性化の様々な案を知って、いろいろな視点で考えることができたので良かった。(C)
・同じ一つの課題に対する意見と、各チーム・各大学のさまざまな視点から聞くことができ、自分の考えがよりいっそう広まった。(C)
・沖島のことをより深く違う方面から学ぶことができた。ブランド力向上プロジェクトではすごく興味をもてるもので実物ができるのが楽しみだと思った。(C)
・同じ年代の人たちがそれぞれしっかりしたプレゼンをしていて、とても面白かった。(C)
・沖島活性化プロジェクトについて、学生の活動はよく分かったけど、住民の顔がよく見えない印象をうけました。(C)
・C の 3 チームともしっかりまとめられたと思います。(C)
・沖島活性化の各チームが本日までの取り組み、交流により、とても密な人間関係を形成しているのが、素晴らしいと思いました。やはり 1 泊 2 日の活動を経ているので、久しぶりに合う、他チームのメンバーとも連帯感のような感情が醸成されているのを感じ、事業の存在意義を実感しました。(C)
・沖島活性化プロジェクトの報告はとてもおもしろかったです。提案だけで終わるプログラムとはいえ、そこに自分たちが主体となって実施するという内容でなかったのが残念だと思いました。(C・A)
・大変参考になりました。(C)
・チーム独自の考えがたくさんあり、こんなにも多くの人が関わっているということを改めて感じた。今回

だけで終わるのではなく、これからも続くけていくことが大切だと感じました。(C)

●Ａ、Ｂの活動報告をお聞きした方にお聞きします。印象に残った発表（団体）があれば、教えてください。
「えこ・リーダー」
・課題に対して具体的に行ったイベントをわかりやすく発表してくださり、参考にしたいと思えたため。
・方法を説明する際、そのアウトプットにふれた人たちがどうなのかというプロセスについて述べているのでわかりやすかった。

「玉川っこ検定」
・実際にカレンダーを作成し、市民にとって役に立つ商品づくりとしても工夫を成されており、興味深いと感じました。「検定」という目線もおもしろいと思います。
・カレンダーといった身近なものから浸透を図ろうとしていて、かつその利便性についても考えていたため。
・カレンダーにごみ収集日をつけるのはいいアイデアだと思いました。

「理想の大津を作ろう」
・20 年後の大津といった、長期的視点で考えている所、また、市全体の連携を目指していたため。
・自分が大津市に住んでいるので。また、発表内容も分かりやすく、興味をもてる内容だった。成果が市民に報告されている。
・どんな大津なら住みやすいか、というテーマがとても興味深いと思いました。
・大津市の現状についても鋭い視点をまじえながら説明された上で、他市にない魅力（田舎でも都会でもないちょうど良い町）を的確に発表されていた。

「堅田・真野健康観光ウォーキングマップ制作プロジェクト」
・それぞれの大学特性を生かし、１つのものを作ろうという思いが良かった。

「滋賀大学教育学部岳野研究室」
・コンセプト・取り組みがユニークで面白い。

「長浜バイオ大学 Entrance to Science」
・子どもたちが楽しいという理由が報告から伝わってきたし、こういう経験ができていたら、もっと興味を持てたのではないかなと思えた。

「立命館大学金井ゼミ」
・学生が自主的にしっかり調べていてとても良かった。また、報告の仕方がとてもうまくて良かった。

●課題解決支援事業の取り組み関係者にお聞きします。実際に取り組んでどうだったか、感想を記入下さい。

（Ａ「地域課題対応型」）
・一学生として、県外から滋賀に住んではいるが、まちのことを知らないという現状を変えられたので、貴重な経験となりました。
・町づくりの方々は、魅力をたくさん知っている。しかし、それを知ってほしいというエゴ的なものを持たないように、学生という立場で客観的に見て、社会にどう役立てるのかという視点を持ち込むことで、地域課題解決が効率的に進めることができたと感じた。
・私は県外出身の者なので、滋賀については分からないことばかりであったため、活動に対してはとても新

鮮な気持ちで取り組め、自分も楽しませていただいています。
・住んでいるのに知らないことが多かったのですが、改めてその地域の良さを知ることができました。
・行政とのコミュニケーション不足を再確認した。今後改善してほしい。
・小さいものではあるが今後の活動のきっかけとなった。

（B「自主活動型」）
・団体の活動としても関わった方々に満足してもらえて良かったが、自分自身も成長できたので、今後も続けていきたいと思う。
・立ち上げたばかりのプロジェクトであり、こういった支援体制があり、利用することができ、本当に助かりました。プロジェクト中に数回簡単な報告をし、HP に概要が掲載されたりする試みがあると良いなと思っています。

●環びわ湖大学地域交流フェスタに対するご意見やご希望がございましたら、自由にご記入ください。
・様々な意見が聞けて、非常に楽しかったです。長く続けて欲しいと思います。
・長い期間、ありがとうございました（学生支援事業の取り組み期間のこと）。
・コラボしがの地図が分かりにくかった。
・C のタイムテーブルがなく、わかりにくかったです。
・大変勉強になり、かつ楽しく大変満足である。時間の関係で難しいと分かってはいるが、B・C 会場の報告もききたかった。
・引き続き事業を実施していただきたい。なお、できればもう少し活動期間を延ばしてもらえるとよいのではないかと思う。

大学地域連携課題解決支援事業 2014

A　地域課題対応型

１．（農産加工品等）地域資源の掘り起こしと活用
　東近江市・滋賀県立大学.....1
２．人口流出を防ぐための定住施策
　長浜市・滋賀文教短期大学.....3
３．甲賀市の地域資源を活かしたまちづくり（水口～土山の文化遺産を活かす事業化）
　甲賀市・甲賀市観光協会・立命館大学.....5
４．理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～
　大津市・龍谷大学.....7
５．玉川っ子検定～わがまち玉川の魅力再発見～
　草津市・玉川学区まちづくり協議会・立命館大学.....9
６．歴史まちづくり法に基づく草津市のまちづくり
　草津市・立命館大学.....11
７．彦根ユネスコ協会の活動への青年層の参画推進について
　彦根市・聖泉大学.....13
８．環境推進員（えこリーダー）への参加
　彦根市・滋賀県立大学.....15

B.「自主活動型」

１．学校と地域社会が協働した児童虐待対策ネットワーク構築に向けて
　滋賀大学.....17
２．滋賀県の木質資源を利用した環境教育教材の開発
　滋賀大学.....19
３．堅田・真野健康観光ウオーキングマップ制作プロジェクト
　大津北商工会・成安造形大学・びわこ成蹊スポーツ大学.....21
４．米原市伊吹地域を中心とした、若者によるまちおこし事業の調査検証と記録
　米原市・滋賀県立大学.....23
５．身近な科学のおもしろさを体験させる
　長浜バイオ大学.....25
６．科学（Science）を通した地域交流
　長浜バイオ大学.....27
７．龍谷大学政策学部「政策実践・探究演習」守山プロジェクト：話し合いがまちを変える！
守山市市民参加と協働による骨太の地域づくり参加プロジェクト
　龍谷大学.....29

環びわ湖
大学地域交流フェスタ 2014

「大学地域連携課題解決支援事業」&「学生支援事業」
活動報告会

12.20（土）13:00 ～ 16:30

コラボしが21 3階 大・中会議室

地域の課題に大学と地域が協働で取り組む活動や大学が自主的に取り組む活動の報告会と学生が県内でフィールドワーク・研修を行った学生支援事業の報告会を行います。実践交流を行い成果や課題を共有し、大学と地域との連携活動の可能性を広げていきたい思います。

Program

13:00 開会

13:10 活動報告会

A「地域課題対応型」の活動報告

1. （農産加工品等）地域資源掘り起しと活用
2. 人口流出を防ぐための定住施策
3. 甲賀市の地域資源を活かしたまちづくり（水口～土山の文化遺産を活かす事業化）
4. 理想の大津つくろう～大学生が考える未来の大津～
5. 玉川っ子検定～わがまち玉川の魅力発見～
6. 歴史まちづくり法に基づく草津市のまちづくり
7. 彦根ユネスコ協会の活動への青年層の参画促進について
8. 環境推進員（えこリーダー）への参加

B「自主活動型」の活動報告

1. 学校と地域社会が協働した児童虐待対策ネットワーク構築に向けて
2. 滋賀県の木質資源を利用した環境教育教材の開発
3. 堅田歴史、観光、ウォーキングマップの作成
4. 米原市伊吹地域を中心とした、若者によるまちおこし事業の調査検証と記録
5. 守山プロジェクト：話し合いがまちを変える！守山市市民参加と協働による骨太の地域づくり参画プログラム
6. 科学（Science）を通じた地域交流
7. 身近な科学のおもしろさを体験させる

C 学生支援事業の活動報告

1. 滋賀県ブランド力向上プロジェクト活動紹介
2. 沖島活性化プロジェクト活動紹介

16:00 交流会

16:30 閉会

主催：一般社団法人 環びわ湖大学・地域コンソーシアム
〒520-0056 大津市末広町 1-1 日本生命大津ビル 4 階
TEL:077-526-8850 FAX:077-526-8851 E-mail：info@kanbiwa.jp HP：http:/www.kanbiwa.jp/